



KITASKA

キタスカだより

第8号 平成27年10月発行  
北部地域住民自治協議会  
北部市民サービスセンター内事務局  
Tel 018 (846) 1133

= あ い さ つ =

北部地域住民自治協議会  
会長 林 明 夫

今年の5月16日に開催されました、北部地域住民自治協議会総会において、会長に選任されました。地域の皆様方にはどうぞよろしくお願いいたします。

また、前加賀谷俊雄会長には当会の設立から長きにわたって大変ご苦勞様でした。心から厚くお礼を申し上げます。

さて、就任早々であります今年度は「キタスカ開館5周年」ということで、色々な記念事業に取り組むことになりました。

6月6日には、秋田臨港警察署による「気をつけよう 振り込め詐欺」。8月29日には土崎出身の脚本家内館牧子さんをお招きして「キタスカ開館5周年記念講演会」を開催しました。お陰様で地域文化ホールや展示ホール(モニター視聴)が満員になるほどの大成功に終わりました。その他、キタスカまつりでは『写真で見る5年間の記録』を開催し、11月8日には「オータムフェスティバル in キタスカ」を開催する予定です。

また、今年の8月に「北部市民サービスセンター」の、利用者総数が100万人を超えました。このことは多くの皆様方に利用されている証であり大変うれしく感じています。しかしながら、施設整備や運営上の問題点も色々あると思います。このような問題解決のため今後も職員と相談しながら改善して参りたいと思います。

これからも、キタスカを北部地域8地区の住民の皆様との交流や情報交換、サークル活動や学びの場の拠点施設として、さらにご活用いただきますようお願いいたします。

新理事の紹介(平成27年5月改正)



役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
会長	林 明夫		長谷川 瑞子	監事	秋田谷 一康
副会長	永田 賢之介		小野 明		鶴谷 宗範
〃	米田 次男	常任理事	伊藤 憲一		牛嶋 道夫
常任理事	藤嶋 昇		佐藤 正朋		星野 敏夫
	秋本 升		佐渡谷 和裕		古井 兼光
	白岩 和弘		渡邊 清明	常任理事	大淵 純悦
常任理事	佐藤 清		齊藤 勝		鎌田 照平
	加沢 哲	常任理事	清水 銀次郎	常任理事	斉藤 清克
常任理事	石塚 實	監事	山本 喜昭		伊藤 敬二
	鈴木 啓悦				

# 第5回 KITASKA(キタスカ)まつり開催！

10月2日(金)～4日(日)の3日間

延べ来館者数 3,975名

## 体育館内のイベント



### ◇開館5周年記念◇

～写真で見る5年間の記録～  
5年前の写真を前に、月日の流れの早さを実感しておりました。



### ◇作品展示◇

地域の方々やサークルの皆さんによる、力作が展示されており、来館者の方々は目を釘づけにされていました。



### ◇マッキーの バルーンアート◇

子どもたちの一人ひとりの要望に応じて、様々なバルーンアートを作ってくれました。

### ◇北部地域特産物直売◇

新米・野菜・お惣菜などや手作りの工芸品などが販売され、多くの方々からお買い求めいただきました。



### ◇子ども縁日◇

ヨーヨー、わた菓子、ポップコーンなどが大人気でした。



### ◇休憩所 喫茶コーナー◇

展示作品の見学後は、お友だちとの語らいの場としても利用いただきました。



地域文化ホールのイベント

「小林幸子」の爆笑  
ものまねショー

ものまねタレントの『まりもちゃん』が小林幸子や松田聖子、美空ひばりなどになりきり、楽しいトークを交えながら、代表曲を歌い上げると会場は大きな拍手と笑いの渦に包まれました。



参加者からは、「テレビでは、良く見るものまねを実際に目にし、こんなに楽しかったのは、久しぶりです」と感想を述べていました。



◇マッキーと遊ぼう◇  
『大道芸人マッキー』の次々と繰り広げられるパフォーマンスに会場からは盛大な拍手が送られていました。



◇骨盤調整エアロ◇  
仕事帰りの方々が参加して、リフレッシュできました。



◇芸能発表会◇  
今年もたくさんの方々が出場してくださり大いに盛り上がりました。

各部屋のイベント



◇映画鑑賞◇  
～踊る大捜査線～  
秋田出身の柳葉さん出演の人気シリーズでお楽しみいただきました。



◇お茶会(裏千家)◇  
毎年恒例の椅子席でのお茶会は大変好評でした。



◇クラフト  
かごを作ろう◇

【お知らせ】

『キタスカ開館5周年記念イベント』の  
関連記事は次号(9号)H28年3月発行  
に掲載予定です。

# ～北部8地区歴史探索～

## シリーズ第7回 下新城地区

＝ 限りなく前進＝



収穫間近の新城地区の豊かな田園風景

下新城地区振興会  
副会長 斉藤 常雄

昭和30年代に秋田北中に統合された旧下新城中の校歌は、「新城川の水清く、千町田揺るる穂波かな」で始まる。古来、稲作地帯として営々と続いてきた風景を余すところなく伝えている。

下新城は新城地区と中野地区から成るが、主に新城地区に当てはまると思う。この地区は、その昔岩手県の中尊寺の寺領だった時期もあり、良質な米の産地として広く知られていたと考えられる。

さて、中野地区の発展は戦国時代に上杉家の武将であった中川秀慶が一族郎等14人を引き連  
とに端を発する。



鷲林寺

新城笠岡に着き、程なく新城堰根の曹洞宗寺院鷲林寺に移り、更に開拓の希望を抱いて、中野島合に落ち着いた。秀慶は「産業の発展は不毛の地を開拓するに勝るものなし」と部下を励まし、中野琵琶沼

の開拓に従事した。30数町歩造成された地には、今も琵琶沼の地名がしっかり残っている。また、朝香山（JR第一追分踏切近くの小高い丘）には、秀慶の墓碑とその前に14人の

整然と並んでいる。開村当時は人家がなかったが、今は500戸に達し発展を結

今一つ、中野地区の発展には、海岸林の設置事業が大きく貢献している。江戸時代の後半、中野村の肝煎中川六右衛門が、巨額の私費を投じて十有余年の苦難の末、250haの海岸林を造成したという。

その後80年を経て、栗田定之丞によって植栽事業が行われ、幅100～450mの海岸林が造成された。更に、大正8年、中野集落有志によるクロマツ植林、昭和2年、中野愛林会を設立しての維持管理、昭和25年からの県営での海岸林造成が行われている。

この地の東側の高台には、昭和30年代に秋田北中、そして、平成物系の学部が開学した。農村地帯の下新城に、生物系の大学が出来たも

多く集まっている学生たちが、海岸林に囲まれたすばらしい秋田県立大学の中で、生き生き勉学に励む姿を見ると、頼もしい限りである。



中川秀慶の墓



秋田県立大学